

熊本地震被災 児童ら招待へ

三島のNPO、今夏実現へ動き

熊本地震で被災した子どもたちに笑顔と元気を取り戻してほしいと、三島市のNPO法人「グラウンドワーク(GW)三島」が、被災児童とその家族らを今夏、三島市に招待することを決め、実現に向けて動き出した。活動資金を得るため、職員らが4月下旬から市内数カ所で開催された募

金活動

を続けている。GW三島は「子どもを元気に富士山プロジェクト」として、東日本大震災の被災者延べ約2400人を三島市や伊豆半島に招待し、「心のケア」の支援をしてきた実績がある。今回は、その熊本版。水の都・三島での水辺遊びや、富士山5合目ハイキン

グ、スポーツ交流などを計画。2泊3日の行程で、伊豆の温泉に宿泊したり、ホームステイしたりする。1回当たり約30人で、3〜5回の実施を予定している。

また、GW三島のメンバーは、山梨県大月市の屋根ふき替え専門業者とともに4月28日に熊本県入り。今月15日までの予定で、益城町、南阿蘇村、宇城市などで、地震で壊れた屋根の雨漏り対策としてブルーシートをかける作業をしている。ブルーシートは1千枚用意。すでに約150軒の屋根を応急修理し、今後さらに150軒に対応する予定だという。

地震の被災地支援への協力や募金、問い合わせはGW三島(055・983・0136)へ。